



米

中干し管理



川根営農経済センター
松浦 雅晃

中干し作業により倒伏を抑制し、目標収量を確保して、良品質のお米が実る稲の体格作りを行います。

《中干しの目的と効果》

- ① 水を切ることによって生育を抑え、茎数過多を防ぎます。葉の垂れを防ぎ、株内に光が入るようにします。また、下位の節間の伸長を抑え倒伏しにくい稲に仕上げます。
- ② 土中に酸素を補給し、根を活性化させます。
- ③ この時期に干すことで収穫直前の落水でも容易に田面が硬くなり、収穫作業がスムーズに行えます。

《中干しの開始時期》

有効茎数（2葉以上ある茎）が平均して20

本程度になったら中干しを開始します。田植後30〜40日を目安に。

《中干しの程度》

- ① ほ場・品種・天候によって異なりますが、10〜15日間実施し、田面に軽くヒビが入る程度行いましょう。
- ② 砂質土壌では軽めに行うか間断かん水とします。

※水はけの良い水田での強すぎる中干しは、稲体を弱める要因となりますのでご注意ください。

《中干し期の除草》

ノビエと広葉雑草の防除にクリンチャーバ SME液剤または、ワイドアタックSCを散

布してください。充分落水した後で、散布後3日は晴れる日に散布し、3日間は入水しないようにします。

《中干し後の水管理》

中干し後の水管理は、湛水と落水を繰り返す間断かん水を行います。（3〜4日程度）その後、幼穂形成期から出穂期は常時湛水状態に保ってください。特に晴天日が続く場合はこまめな水管理が必要です。

《ケイ酸の補給》

稲はとてもケイ酸が必要な作物です。ケイ酸は、光合成を高め茎尻を強くします。中干し期に歩き易くなったらケイ酸加里プレミアを40kg/10a施肥しましょう。